宝塚大学　東京メディア・コンテンツ学部

NEWS LETTER

2014.7月号

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の"今"を伝えます。

Takarazuka Univ. vol.46

NewsLetter 2014年7月号 vol.46
2014年7月31日発行

Editor　永田久美子、金澤英樹（本学職員）
Art Director　渡邉哲意（本学准教授）、芦谷耕平（本学講師）
Designer　小野寺真央（イラストレーション領域4年）
松波恵（イラストレーション領域4年）
有馬ゆずか（マンガ領域3年）

HOT TOPICS

卒業生、千葉奈央さんの作品が「第７回新エイジコミック大賞」に準入選。

「第５回クラサン杯」にマンガ領域の２人が初参加！

高校生向け教科書「国語表現」で竹内教授の著書の一節が採用される！
オフィスワンダーランド第37回公演「龍馬疾風録」に本学教員と学生が参加！

卒業生清水幸詩郎さんのマンガ単行本「２×BONE」第３巻発売！
卒業生夢島スイさんが「不可思議な遊戯展」に出展

日本デザイン学会にて田島専任講師と学生が研究発表
たちばないさぎ講師が「がんセンター」で出張漫画講座を開催

薬王寺・柳町七夕まつりに学生が似顔絵缶バッジで参加
町×ヅカ製作委員会がネットラジオで音声コンテンツ協力も！

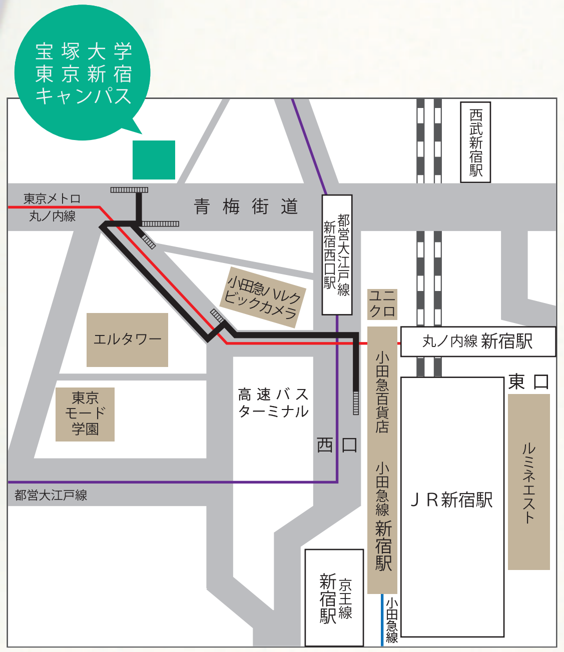
授業紹介
マンガ背景美術Ⅱ　イエス小池講師

教員紹介
映像領域　田島悠史専任講師

学生紹介
マンガ領域１年生　泰一裕さん

宝塚大学
www.takara-univ.ac.jp

東京新宿キャンパス
東京メディア・コンテンツ学部｜大学院
〒160-0023　東京都新宿区西新宿七丁目11番1号
TEL：03-3367-3411
FAX：03-3367-6761
E-Mail：tokyo@takara-univ.ac.jp



表紙写真
「インフォームドコンセントアプリ」

HOT TOPICS
COMIC NEWS

卒業生、千葉奈央さんの作品が「第７回新エイジコミック大賞」に準入選。

本学卒業生、千葉奈央さん（ペンネーム：幸奈ふなさん）の作品「姫女子！」が富士見書房主催の「第７回新エイジコミック大賞」に準入選しました。現在、読み切り作品「ワールド・スイッチ」がコミック雑誌『月刊ドラゴンエイジ』（富士見書房）７月号（６月９日発売）に、また受賞作品「姫女子！」が、電子書籍のコミック雑誌『エイジプレミアム』７月号に、それぞれ掲載されています。

最新読み切り作品
「ストーカー症候群（シンドローム）」が『月刊ドラゴンエイジ』（富士見書房）8月号（7月9日発売）に掲載！

千葉さんに聞きました！

昨年秋、別の出版社で打ち合わせていた作品がことごとくボツとなり、漫画のアシスタントの面接もうまくいかず落ち込んでいたところ、マンガ領域講師の市野先生に「ドラゴンエイジ編集部にアプローチしてみたら？」とアドバイスされました。作品を持って行ったところ、編集長に認めていただき、その後準入選。とんとん拍子に話が進んで今に至っています。「〇〇はオレの嫁！」と言われるように、愛されるヒロインキャラを追求していきたいと思っています。

「第５回クラサン杯」にマンガ領域の２人が初参加！

小学館の投稿まんがコンテンスト「第5回クラサン杯」に、今年も本学から2名の学生が参加しています。「クラサン杯」は、全国のまんが系スクールの生徒を対象にした投稿まんがのコンテスト。エントリーした作品は「クラブサンデー」のサイト上ですべて公開され、読者投票および「クラサン杯」事務局の審査により、優秀作品が決まります。

マンガ領域２年 照井沙織さん（川崎総合科学高校出身）
マンガ領域講師の市野先生に「授業課題で参加ＯＫ」とお話をいただき、手元にあった作品を投稿。写植入りの完成データが必要でしたので、写植作業や印刷が大変でした。今までこんな形で作品を人に見てもらったことがないので、ＷＥＢサイトに自分の作品が公開されたときはうれしかったです。

マンガ領域３年 渡邊暦祥さん（豊島学院高校出身）
最初はこのコンテストの存在すら知らなかったのですが、マンガ領域講師の市野先生から「出てみない?」とお誘いを受け、参加しました。やはり僕もデジタルデータのテキスト入力に苦労しましたね。今後はミリタリー系のドラマに力を入れていきたいと思っています。

「第５回クラサン杯」WEB サイト
http://club.shogakukan.co.jp/sp/cs_cup05.html

No.1まんが学生は誰だ…!?
第5回
全国まんが系スクール参加型才能発見&発掘プロジェクト
クラサン杯（カップ）
clubsunday cup

HOT TOPICS
授業紹介
教員紹介
学生紹介
今後の予定

高校生向け教科書「国語表現」で竹内教授の著書の一節が採用される！

大修館書店よりこのほど出版された高校生向け教科書「国語表現」の中で、本学 竹内一郎教授の著書「人は見た目が9割」（新潮新書）から、「間の大切さ」について書かれた一節が採用されました。「今回、執筆した文章が教科書に掲載されたことは、その時代のスタンダードな作家として認められ、わかりやすい日本語が書けると認めていただいたということ。うれしく思っています」と竹内教授。高校生の3年間、「国語表現」の授業で使われることになります。

オフィスワンダーランド第37回公演「龍馬疾風録」に本学教員と学生が参加！

竹内教授が代表を務めるオフィスワンダーランドの第37回公演「龍馬疾風録」が、新宿村ＬＩＶＥにて上演されました（6月6～8日）。本公演では、漫画家の小川悦司先生（イラストレーション）のほか、本学の渡邉哲意准教授（映像技術）、市野治美専任講師（舞台美術）、もそれぞれの分野で協力し、それを学生たちがサポートするという初の試みでした。全公演ともチケットは完売、来場者からも大変な好評をいただき、成功裏に終わりました。

竹内教授に聞きました！

社会全体を覆う今の閉塞感をブレイクスルーしてくれるのは龍馬しかいない、という思いで今回の脚本を書きました。お客様の反応は非常によく、「わかりやすく面白かった」「うちの高校でぜひやりたい」という声も寄せられています。本公演はまた、プロジェクションマッピングや舞台美術に高い専門性をもつ本学の先生方に協力をお願いし、学生がサポートするという産学協同の実験的試みでした。今回経験したことで、演出家の要求レベルに、「ここまでなら応えられる」というイメージができたはず。この経験を次に生かしてほしいですね。

卒業生 清水幸詩郎さんのマンガ単行本「2×BONE」第3巻発売！

“新進奇鋭”の描くダーク×骨×アクション”と話題のマンガ「2×BONE」（講談社「月刊少年シリウス」で2014年4月まで連載）は、本学部2期生である清水幸詩郎さん（ペンネーム）の連載マンガです。このシリーズ単行本最終巻である第3巻が、いよいよ6月9日に発売されました。

清水さんに聞きました！

マンガは人に読んでもらえなければ意味がありません。より多くの人に読んでもらうにはどうしたらいいか？それをずっと考えて、描いて、失敗して、試行錯誤して、また描いて…を続けていくだけです。読者に「面白かった！ 続きが気になる！ 早く読みたい！」と感じていただけるようなマンガを描くのが最大の夢です。今、新作マンガに取り組んでいるので、ぜひ楽しみにしていてくださいね。

★作者プロフィール
宝塚大学東京メディア・コンテンツ学部マンガコース（現マンガ領域）卒業。在学中から自主的に編集部への持ち込みを続ける。2010年、「ヴァン・ヴァルヴァーニの奇妙な人形店」（ペンネーム　一喜一憂）で第16回シリウス新人賞佳作受賞。「月刊少年シリウス」2013年1月号にて「2× BONE」で連載デビュー。

シリウスKC「2 × BONE」第3巻
発売日：2014年6月9日
著者：清水幸詩郎
定価：648円（税込）

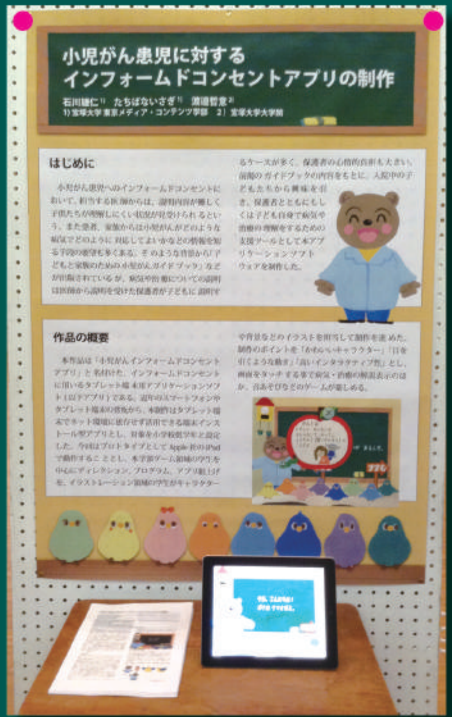
骨喰虫（エクリプス）と呼ばれる異形の骨の怪物と、それに対抗する人間の血から造られた骨骼騎士（オステオン）を操る人々。人類の生存をかけた戦いを描くバトルアクション。

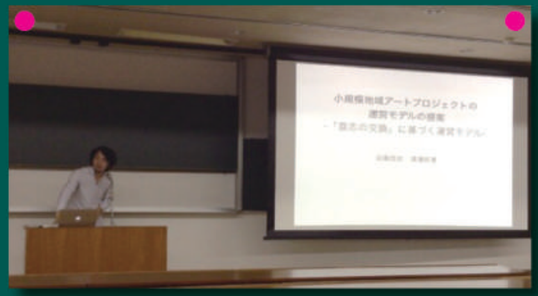
卒業生 夢島スイさんが「不可思議な遊戯展」に出展

卒業生の夢島スイさん（ペンネーム）参加のグループ展「不可思議な遊戯展」が、銀座スパンアートギャラリーで開催されました（6月10日～21日）。昨年暮れの渋谷 Bunkamura で合同展示に出品したことから、今回の出展が実現したとのことです。

夢島さんに聞きました！

全体的にいつも「海」をとり入れた作品づくりになっています。作品は見る人の想像にお任せしていますが、常に子どもの目線を忘れず、命燃やす全てのものに愛情を注ぎつつ、ときに物事への怒りや自分的なトラウマを自由に表現してゆくこと、また固定概念の箱庭のような思考を打ちのめすことに重点をおいて作品づくりをすることを心に誓っています。





日本デザイン学会にて田島専任講師と学生が研究発表

福井工業大学で行われた日本デザイン学会にて、本学田島悠史専任講師と、ゲーム領域４年生の石川雄仁さん（渋谷教育学園渋谷高等学校出身）がそれぞれ研究発表を行いました（7月5〜6日）。田島講師は「小規模地域アートプロジェクトの運営モデルの提案」の中で、デザインやアートによる地域振興のニーズが高まる中、低予算の中で実現できる関係づくりの重要性を、石川さんは「小児がん患児に対するインフォームドコンセントアプリの制作」についてポスター発表しました。

渡邉哲意准教授に聞きました！

今回はちょっとした珍事件がありました。本学新宿キャンパスのアプリのポスターパネルの裏面が、偶然にも宝塚キャンパスの「ペットボトルを題材とした子ども向けワークショップの試み」のパネルだったこと。つまり1枚のパネルを挟んで背中合わせに本学学生の発表があったわけです。どちらも多くの人に囲まれ、他大学の先生方や院生たちに切れ目なく質問されていました。

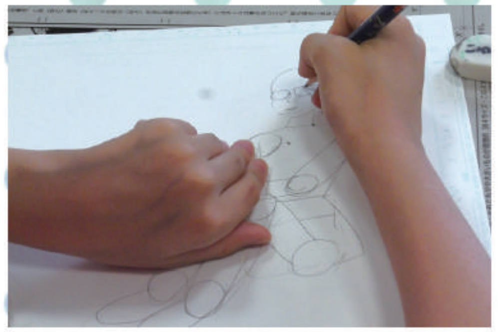
たちばないさぎ講師が「がんセンター」で出張漫画講座を開催

国立がんセンター中央病院（中央区築地）小児科の院内学級「いるか分教室」で5月26日に、本学のたちばないさぎ講師が出張漫画講座を開催しました。

この企画は病院関係者の一人から「いるか分教室では、子どもたちが興味をもつ職業のスペシャリストを招いて授業を行なっています。その職業の中に『漫画家』もありましたので、お願いできますか？」というご依頼メールがあったことから実現しました。

たちばな講師に聞きました！

自己紹介のあと「漫画家」について話しました。小学生と高校生の参加者に向けて「人間を上手く描くコツ」を伝え、いるか分教室の先生にモデルをしていただき、みんなでクロッキー。下書き、ペン入れ、消しゴムかけもやって、日付とサインを入れて完成させました。後日参加者から届いたカードには、「描いた絵を家族にほめてもらえた」「今後、教えてもらったことを生かしたい」といった感想があり、とても嬉しかったです。私の方が楽しませていただきました。



神楽坂からほど近い牛込柳町にて、「第36回薬王寺・柳町七夕まつり」が開催され、卒業生を含むイラスト領域の学生5名が似顔絵缶バッジ制作で参加しました（7月6日）。約500ｍの道路が歩行者天国となってサンバカーニバルで賑わう中、道路沿いの一露店として4度目の協力となりました。お客様からは「今年も来ました」「子どもが喜ぶので」という声をいただき、準備した缶バッジは終了予定1時間前に終了。参加した学生たちもうれしい悲鳴をあげた、大忙しの1日でした。

薬王寺・柳町七夕まつりに学生が似顔絵缶バッジで参加

5分間のトーク音声を録音・編集してアップ。木曜日更新。

本学デザイン表現研究室の学生たちとシンガーソングライター町あかりさんとのコラボ、町×ヅカ製作委員会。このたび、町あかりさんのライブ会場である神楽坂マッシュレコード提供のネットラジオに、町×ヅカ製作委員会が協力することになりました。学内の一室を録音室にし、メンバーが交代でトーク。毎回ロケ現場でのエピソードやインタビューのこぼれ話で盛り上がっています。フリーペーパー「町×ヅカ」の制作裏話が面白すぎてもったいない、ということから始まった企画ですが、ラジオを聴いたファンがツイッターで感想をツイートするなど、大変好評です。

町×ヅカ製作委員会がネットラジオで音声コンテンツ協力も！

個性を生かしてこそ背景画は面白くなる

マンガ背景美術Ⅱ

専門選択科目

受講学年：2～3年
担当教員：イエス小池講師

★イエス小池講師プロフィール

1955年、東京都生まれ。87年集英社「ヤングジャンプ」新人漫画大賞に「雨のドモ五郎」で準入選、続いて同奨励賞、努力賞、翌年、佳作賞を受賞。現在もジョージ秋山氏のもとでアシスタントを続ける。著書に「サイコホスピダー」（三一書房）、「漫画家アシスタント物語」（マガジン・マガジン社）、「劇画蟹工船・覇王の船」（宝島社）など。

学生の個性を見ながら個別に指導

この授業では、より効果的でわかりやすい背景技術のレベルアップを目指します。建築物や小道具、乗り物や自然、天候の描き方、スクリーントーン処理など、技術の習得だけではなく、マンガ家アシスタントの経験から、体験談をもとにマンガ界で生きるプロ意識を育成することをねらいとしています。

今日の授業では、飛行機や船などメカニックなものを描いており、これは3回にわけて取り組みます。

勘違いされやすいのですが、背景画のもっとも面白いところは、「いかに個性を出していくか？」です。同じものを描いても、人によって大胆に描く人もいれば、ていねいに細密に描く人もいます。デフォルメのセンスに長けている人もいるし、人それぞれなのです。

学生たちは技術的なレベルも個性も様々ですから、学生が描いてきた課題を見ながら、またその学生とよく話して良いところを見つけながら、個別に指導することが大切です。

朗読を続けているのは本を読んでほしいから

私は発想力豊かなマンガ家になるために重要なのは「本を読むこと」だと思っています。しかし今の学生は忙しくて読書にまで手が回らない。だから私は大学生向けに「マンガ家の卵が読むべき150冊」というのをリストにして渡しています。また「見るべき映画300本」リストもあります。それでもなかなか読んでくれない。そこで私は、15回の授業の4～5回を使って朗読をやっています。1時間近くをかけて一編の短編小説を読むのです。「本を読みなさい」と100回言うより、実際に読んで聞かせたほうが面白さがわかりますからね。今日の授業で読んだのはアメリカのSF短編小説「ロト」。学生たちは作業をしながら静かに聞いていました。

私はマンガ家アシスタント歴が長いため、背景画を仕事にする人は仕事場で何をするのか？　新人がどのように出版社に作品を持ち込み、どんなやりとりをするのか、といった業界の裏話なども、折に触れて話すようにしています。

誰も見たことがないものを一緒に見て感動したい

映像領域
田島悠史 専任講師

家の中でも外でもとことん遊んだ少年時代

とにかくウルトラマンが大好きな子どもでした。僕が好きだったのは怪獣のほう。あの奇妙なカタチと、完全な悪役ではない意味不明な存在感にわくわくしていました。うっかり見逃すと大泣きしていたのを覚えています。今改めて見てもすごい映像表現や音楽を使っているな、と思いますね。

小学校高学年の頃、「信長の野望」というシミュレーションゲームが流行りました。家ではゲームを買ってもらえなかったので、なんとノート上で友達とコレをやっていました。攻略本にある戦国武将たちの「政治力」「知力」「戦闘力」「魅力」などの数字データから情報を読み取り、物語を作り、戦うのです。数字が物語になっていくプロセスに興奮しましたね。

家は東京の端っこ、高尾山にほど近い場所でしたから、外でも存分に遊びました。廃墟を見つければ、「山から下りてきた熊に荒らされたんだ」などと勝手にお話を作り、自然の中では自分たちで遊びのルールを作っていました。家の中でも外でも、とことん遊んだ子ども時代でした。

これまでの固定概念を一度捨てて考えてみよう

中学・高校では運動部に所属しながら小室哲哉のPVの映像と音楽に衝撃を受け、その後慶應義塾大学へ進学。環境情報学部では最先端の映像表現や、メディアアートに触れる機会が多々あり、「見たことがないものが好き」な僕は大いに刺激を受けました。卒業制作では音と映像が融合した作品を制作。また東京藝術大学の大学院では「人工知能を使ったメディアアート作品」を制作するようになり、韓国をはじめ様々な地域の作品展に呼ばれるように。

2012年、新宿クリエイターズフェスタに参加したことがキッカケで宝塚大学と関わるようになり、この4月から「メディア社会学」「メディアリテラシー」「映像メディア論」などの授業をもつことになった経緯があります。

映像メディアの世界は日々新しい表現が生まれる分野です。だから僕の授業では、僕が過去に見てきたものを学生に教えるのではなく、誰も見たことがないものを一緒に見て感動し、考えていきたいと思っています。固定概念を捨てて、どんどん外に出て行きますよ。

★田島悠史専任講師プロフィール

東京藝術大学大学院映像研究科修了。慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程単位取得退学。明治学院大学非常勤講師、嘉悦大学非常勤講師、慶應義塾大学SFC研究所上席所員。主な論文に「小規模アートプロジェクトにおける持続性とコミュニケーション構造の関係」（共著）がある。

想像力をかきたてる楽しい授業に夢中！

マンガ領域1年生
泰 一裕さん
（神奈川県立白山高等学校出身）

絵はド下手くそ。でもお話作りが好きだった

僕が小学校時代に何より好きだったのは「星のカービィ」です。まず低学年の頃にマンガで読んでそのキャラクターにほれ込み、よく真似をしては描いていました。僕は当時から絵がどうしようもなく下手でしたが、カービィは真似がしやすく、描いている時にとても楽しかったんです。高学年になるとカービィの〝コピー能力〟をイラストで描き出したりして遊んでいましたね。

高学年になって、なぜか「鎧（よろい）」に目覚め、様々な鎧とそれを身に着けるキャラクターを作ることにはまっていきました。また、それらのキャラを登場させて、ストーリーを組み立てていくのも面白かった。今もそうですが、僕は絵を描くことよりストーリーを作る方が好きなんだと思います。

中学生になると、マンガ家を目指す友達のお姉さんが「マンガの描き方入門」を借してくれました。これをひたすら読み、描きまくって、少しだけマシな絵が描けるようになったかな？　この頃から次第に「マンガ家になりたい」と思うようになった気がします。

マンガ家になるために必要な力を身につけたい

一方で僕は小学1年生のときから剣道を続けていて、今では小学生を教えたりもしています。高校からは同じ道場で居合道も習い始め、大きな大会で優勝したことも。こうして武道を続けて得たものを、今後、僕の絵やマンガの世界で表現していけたらいいな、と思っています。

僕はとても人見知りで、高校時代はこれを克服するために生徒会に入りました。この経験で、人前で話すことにはだいぶ慣れたのですが、人とのスムーズなコミュニケーションにはほど遠いと感じています。宝塚大学に入学後、僕の性格を知った先輩が何かと声をかけてくれ、他の1年生の輪に誘い入れるなどしてくれました。この大学の先輩たちの優しい心遣いには本当に感謝しています。また「創造基礎」の授業はグループ制作なので、いろんな人と話し合う中で、この人見知りな性格を克服したいと思っています。

今一番楽しいのは、「ストーリー創作基礎」という授業。自分の想像力が引き出され、意欲的に課題に取り組めますし、何より「自分の思いをそのまま表現していいんだ」ということが楽しいですね。ストーリーを生み出す力も画力も身につけたいので、今後もっともっと努力します。

高校時代から温め続けているキャラクター。
キャラノートには、たくさんのオリジナルキャラのイラストと性格がびっしりと書き込まれている。

オープンキャンパス

日時：8月2日(土)、 8月23日(土)
10：00～16：00
会場：宝塚大学 新宿キャンパス

主な内容 ： 大学紹介、入試説明・相談、領域紹介、特別授業、ワークショップ、相談コーナー、在学生とのフリートーク、保護者相談会など